

## ノビタキ（ヒタキ科） 全長13センチ

いま、大仙市の田んぼは見渡す限り黄金色に彩られています。

ノビタキはこの時を狙っていたかのように渡来した。稲穂の上を7～8羽が飛び交っています。雌雄どちらも茶褐色の冬羽に変わっていて、遠目では区別が付きません。稲穂よりも背丈の高いススキや稗などがお気に入りのようで、ここから草むらや地上に潜む昆虫などに狙いを定めます。



稲穂から飛び立つと、トンボを捕まえて戻って来た。(メス)

目の前を飛び交うアキアカネを捕らえました。なかなかの名ハンターです。

顔の黒いのがオス。メスの顔は明るく、目の周りが白く縁取りされているので可愛らしく見えるようです。収穫期を迎えた田んぼにコンバインが入ってくると、姿が見えなくなりました。



黒っぽい顔がオス。



メスは目の周りが白く縁取りされているので、チャーミングです。

周囲を探し回ったら、静かな畑に移動していたのです。

ここなら、安心して野菜に付いている青虫などを食べる事が出来そうです。寒さを迎えるまでの、僅かな期間の滞在となりそうです。



ノビタキにはススキが良く似合います。(オス)



杭の上で伸びをしました。